

DEBUT 首長

大津市長 越 直美氏

連携会議で県との仲、円滑に 京都から観光客を呼び込む

大津市 7世紀に天智天皇が近江大津宮を置いた古都。京都市と接し、逢坂の関、比叡山を隔てて両市の中心部は直線距離で約10km。人口約34万人で微増。

——最年少の女性市長・県都市長が女性知事とペア、などと脚光を浴びている。

女性のほうができることもあるのだから、肯定的にとらえている。橋下徹・大阪市長から「華がある」とおほめいただいたようだが、政治手法は異なる。女性ならではの手法で進めていく。嘉田由紀子知事とは県市連携会議を開くことで一致した。まちづくりなど共通の課題を話し合い、ぎくしゃくしていた県市の関係を円滑にする。とはいえ、申すべきことがあればきちんと要望していく。

——公約で市を7ブロックに分ける「地域経営会議」創設をうたった。自治会には反発もあるようだ。

2012年度の早い時期に形にしたい。どのような方法で住民参加してもらうか方法はこれから考えるが、地域経営会議は

自治会のような組織ではない。自治会の代表もメンバーたり得る。7つの会議ではそれぞれ地域の問題を話し合う。権限もできる限り与え、テーマ設定もそれぞれが決める。その上で予算が必要な事業があれば市として考慮したい。南北約40kmと細長い大津市で、市役所に来ないと各種申請ができないのは不便。7カ所に統合庁舎を設けることも考えている。

——選挙戦で市営ガス事業の民営化検討は他候補と差が際立った。

ガスは民営化を検討するといったのであり、民営化を主張したわけではない。財政状況が厳しい中で民間ができることは任せ、市は民間ができない子育てや介護支援をやるべきだ。大津市のガス事業は黒字で料金水準も安い。ただ選挙中は詳細な資料が手に入らなかった。折しも就任直前に庁内委員会が「公営継続が望ましい」という報告を出した。一方で経営が健全なうちに高く売却するという意見もある。これから外部の意見も聞いて判断したい。



こし・なおみ 1975年生まれ。2000年北海道大学法学部卒、同年司法試験合格。01年北大大学院修士課程修了、02年第1東京弁護士会弁護士。10年米ニューヨーク州弁護士。1月の市長選で当選。趣味は小学生時代からの水泳。独身。

——大津市は近年、市民病院の入札談合事件をはじめ、職員不祥事が相次いでいる。

弁護士として企業のコンプライアンス（法令順守）に取り組んだ経験も生かし、喫緊の課題として取り組む。4月に職員の公正な職務執行に関する条例を施行するが、それを待たずに、このほど開いた管理職研修など研修を強化する。職員向けに目安箱的な制度も設けたい。

——子育て、高齢者福祉とともに観光振興を訴えた。

京都市のすぐ隣にある古都なのに大津市はほとんど知られていない。京都に来る観光客の一部でも呼び込みたい。具体的な検討はこれからだが、京都市、京都府の協力を得て京都駅に大津の観光案内所を設けたい。国際会議の誘致も進めたい。嘉田知事といっしょに海外にトップセールスしたいと考えている。

各政策について2年目には成果を出したい。

（聞き手は

大津支局長 紙谷 樹）